2023年度「Ｂ＆Ｇ海洋性レクリエーション指導員」
第８回センター・インストラクター養成研修　実施報告書

2023.10.16
事業部　事業課

Ｂ＆Ｇ海洋性レクリエーション指導員規則 第３条に基づき、下記のとおり研修を実施し、35名が課程を修了したことをご報告いたします。

記

１.「事業概要」及び「修了試験結果」並びに「登録認定課題」について

【事業概要】

本研修は、海洋性レクリエーション（以下、海レク）活動や水泳指導、地域コミュニティの活性化を担う人材であるＢ＆Ｇ海洋性レクリエーション指導員（以下、Ｂ＆Ｇ指導員）を育成し、習得したプログラムに基づく実践活動を通じて、青少年の健全育成や海への理解促進、地域住民の健康増進、地域の発展に寄与する目的で実施するものである。

2023年度「Ｂ＆Ｇ海洋性レクリエーション指導員」第８回センター・インストラクター養成研修は、鹿児島県天城町Ｂ＆Ｇ海洋センターにおいて、8月30日から33日間の合宿研修を開始。

開講式前日に行ったPCR検査の結果が、研修初日に判明し、2名の陽性が発生。

発熱等はなかったが、2名は5日間の隔離を行い、抗原検査を実施の上、陰性となったため、研修に復帰した。以後、陽性者の発生はなかった。

開講式は36名で行ったが、研修期間中に1名が家庭の事情で帰郷せざるを得ずに、修了者は35名となった。

【修了試験結果】

研修生 35名全員が学科試験および実技試験（カヌー、水泳、ロープワーク）に合格。

※修了試験の内容・試験項目・合格基準については、「Ｂ＆Ｇ海洋性レクリエーション指導員　養成研修の修了試験に関する達」に基づき実施した。

【登録認定課題】

研修修了者は、所属海洋センターにおいて以下の登録認定課題を行い、実施内容を明記した「実績報告書」を2024年8月30日（金）までに提出したものに限り、資格の認定・登録を実施する。

◆資格認定条件となる認定課題

① 海洋性レクリエーションの指導または指導補助を行う
② 水辺の安全教室の指導または指導補助を行う
③（新規項目追加）海洋ごみの削減に向けた「啓発活動」及び「清掃活動」を行う
④（新規項目追加）食品ロス削減活動を行う
⑤「リーダー研修」を開催し、3名以上のリーダーを養成する
⑥ 所属する海洋センターの指導者等に研修で習得した内容を伝達する

２．期間　2023年8月30日（水）～　10月1日（日）（33日間）

３．場所　鹿児島県天城町Ｂ＆Ｇ海洋センター

４．参加者及び修了者　※

【8/29 受付時点】　男性 32 名、女性 4 名　合計 36 名

（最年長者：50 歳、最年少者：20 歳、平均年齢：29.0 歳）　※参加者名簿 別紙

【10/1 修了時】　男性 31 名、女性 4 名　合計 35 名　　※修了者 35 名

５．研修スケジュール及び履修時間

履修時間　　計 238.5 時間（規程時間 180 時間以上）　※研修スケジュールは別紙

６．天城研修のコロナ対応及び次年度での実施対策（案）について

項目	天城町での対応（実績）	次年度の対策（案）
基本的な感染防止対策	マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保、手指消毒の徹底	左記の対応を推奨とし、体調不良者がいなければ、状況に応じて、緩和したい
コロナ対策配付物品	不織布マスク、手指消毒液、清拭用消毒液、ペーパータオル	マスクは必要に応じて、配付したい
事前及び到着時 PCR 検査実施	事前に自治体において、PCR 検査の実施を必須とする また、到着時に PCR 検査・抗原検査を実施する	コロナ 5 類に伴い、来島時の抗原検査実施のみの対応とすることも含めて、検討していく
陽性者の対応	陽性者は退所せず、体調が回復し、抗原検査が陰性となるまで、居室にて療養	同様の対応を行う
発熱等の体調不良者の対応	発熱等の体調不良が発生した際、即隔離し、研修から一時離脱させる	同様の対応を行う
研修開始前の看護師による健康チェック	看護師による健康チェック、問診を行う	看護師を調達の上、同様の対応を行う
毎日の検温、体調チェック	一日３回の体温、健康チェック	コロナ以外にインフルエンザの発症チェックのためにも、同様の対応を行う
最寄り空港からの移動手段	空港から財団が手配したバスにて、研修地まで送迎	バスの借用は取りやめる 原則は、空港から研修地までは、公共交通機関での移動とする しかし、天城町では公共交通機関が脆弱であるため、車両での送迎を予定する
共有スペースの使用制限	大浴場の利用制限	使用制限を解除する方向とする

休務日の対応	休務日の外出禁止	外出禁止の対応を取りやめる方向とする
日用品の買い出し・飲酒の対応	休務日のみ飲酒を許可 ※1 回目の休務日まで飲酒禁止	同様の対応を行う
居室定員	定員２名とした	同様の対応を行う
指導スタッフの事前検査	PCR 検査の実施を必須とした	来島時に抗原検査実施することとしたい

７．前回からの「改善事項」及び今回からの新たな対応・課題について

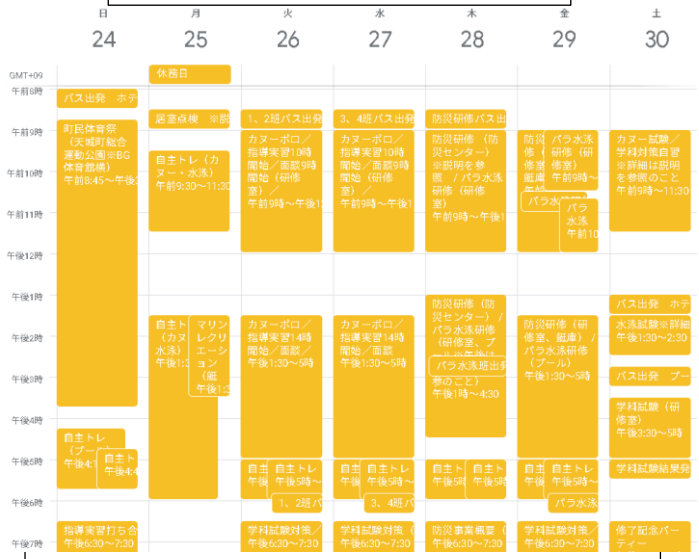
（１）**Google カレンダー・Google ドライブの導入による ICT の活用について**

・今年度から新たに Google カレンダーと Google ドライブを活用することで、教官、研修生、サポートスタッフとの情報共有、データ共有が非常にスムーズに行えた。

・共有設定する際に、一部の研修生で不具合があり、トラブル対応や設定変更に数日かかる場合があるため、次年度導入する際には、研修地に出発する前に、研修生全員に設定できるよう前もっての準備を検討する。

項目	メリット	デメリット
Google カレンダー	全日程の講義時間、食事時間、バスの出発時間、準備物品などを可視化し、スマートフォンで確認することができる また、変更も容易にできるため、運営側の負担を大幅に減らすことができた	研修生全員が導入できる設定にするまでに数日かかる 設定をスムーズに行うためには、研修生に gmail の新規アカウントの作成などを依頼することも検討していく
Google ドライブ	講師の講義データ、試験結果、指導実習の班ごとの指導案作成データ、グループ面談データ資料などがスムーズに共有できた また、他の班の指導案データも確認できるため、多くのノウハウを持ち帰ることができる	

9/24～9/30 の週の Google カレンダー



Google カレンダーで全日程のスケジュールを共有した

Google ドライブで各種データ 130 以上のファイルを共有した

（2）夕食時間と夜の課業時間の入れ替え

・研修生の夜の自由時間を多く取るため、先に夜の課業を行い、その後夕食時間とした。
・また、研修生自身も夕食時間から自由時間との認識でおり、ゆっくり夕食を楽しみ、研修生同士のコミュニケーションも弾んでいる様子がうかがえた。
・サポートスタッフからも夜の時間が多く確保でき、打ち合わせや明日の準備に時間が使える点がよいと好評であった。
・デメリットをあげるとすれば、天城町では「自主トレの時間確保に難あり」な点である。
夕食より夜の課業を先にしたため、18 時 25 分までには研修室に集合する必要があり、
17 時 50 分にはプールでの自主トレを終了し、18 時にはプールからバスで戻るため、
自主トレ開始時間が 17 時からでは 1 時間も確保できない。
自主トレ時間を優先する場合は、午後のマリン課業を 16 時着艇、16 時 20 分解散しなければならず、課業時間が短くなるという矛盾が生じる。
これは、天城町特有の条件であるホテルとプールが離れていて、移動時間が発生することに起因している。解決するために、プログラムのスケジュールを調整することで、「自主トレ時間の確保」、「夜の自由時間の確保」ができるように検討したい。

（3）研修生 Wifi 環境の整備（研修生への Wifi の貸出）について

・昨年度のアンケートからもホテルの Wifi 環境が良くないため、Wifi 端末を追加で 10 台レンタルし、研修生へ貸し出すこととした。
・結果としては、レンタルした Wifi 端末も電波状況が不安定であったため、研修生の居室など場所によっては、つながらないことがあり、抜本的な解決策とはならなかった。
・島内に高速インターネットの光回線は導入されているが、ホテルまでは延びてはおらず、次年度に向けて Wifi 環境の改善をホテルへ依頼していく。

（4）女性教官・指導員の配置について

・2023 年度沖縄研修アンケートの際に、研修生から女性スタッフがおらず、女性特有の相談が難しい指摘があったため、今回は増員して、できる限り女性教官や女性指導員を配置できるようにした。
・女性スタッフには、女性研修生のフォローをあらかじめ伝えていたため、各女性スタッフが積極的に、女性研修生とコミュニケーションを図ったおかげで、研修生から女性スタッフへ気軽に相談ができる環境ができ、お互いに声掛けが可能になった。
・今後も、役員に女性スタッフの配置について必要性を訴えながら、期間中常に女性スタッフが配置できる環境を準備していきたい。

（5）指導実習 実施回数の大幅増加について

・研修修了後、地元に帰ると即戦力を求められる研修生から、もっと多くの指導機会を設けてほしいニーズがある中、コロナが 5 類になったタイミングで、指導実習の機会提供を天城町へ相談した。
・結果として、町内幼稚園、スポーツ少年団、BG 塾、天城町役場職員などを対象に 10 回の実習機会を調整し、各班 5 回の実習の機会を研修生に提供することができた。

・しかしながら、一部の研修生からは、実習の内容を班で話し合う時間が短いという意見もあったため、次年度同様の実施回数となる場合は、児童の学年や性別などの情報も含めて、早めに案内し、打ち合わせ時間を確保する。

（6）メイン職員３名体制、自主トレサポート指導員の増員について

・今回事業課のメイン職員が 2 名体制で運営を行ったが、スタッフのコロナ陽性が発生したりするなどで、現場としては、一時的にスタッフが少ない中で、今いる人員でできる対応を取らざるを得なかった。また、メイン職員 2 名体制の場合、当直制度を実施することが難しく、中盤から後半にかけても、実技研修があるため、可能な限りメイン職員 3 名体制での配置を役員にお願いしていきたい。

・今回、特に水泳自主トレーニングで指導、サポートできる指導員の配置の必要性を感じた。天城町はプールへの移動に車両での送迎であり、立ち泳ぎの上達が遅い研修生が 6 名おり、研修後半まで立ち泳ぎ 5 分の達成ができない研修生がいた。教官は夜の課業の準備やホテルとの打ち合わせなどで、自主トレにつくことができず、サポート指導員が 1 名しかいない期間もあり、研修生の自主トレ進捗管理や指導が不十分な時期があったため、水泳・カヌーの自主トレのためのサポート指導員の増員をお願いしたい。

（7）ヨット実技の代替カリキュラムの新規実施について

・天城町ではヨット実技の実施が難しい水面環境であるため、ヨット実技の代替など天城町で以下のカリキュラムを新規に実施した。
実施プログラム（レクリエーション実習、カヌーポロ実技、オープンウォーター実技、水上スキー実技、アクアリズム・フロアリズム実技の中で新規実施プログラムのみ、抜粋）

【結果、今後の対応】

カリキュラム項目	考察
新規） アクアリズム実技・座学 フロアリズム実技・座学	参加者アンケートにおいて、体育館プログラムや他の水泳プログラムのニーズがあったため、財団が過去にプログラムを作成した、幼児対象の「アクアリズム（水慣れ）」及び「フロアリズム（体操教室）」をカリキュラムに導入した。古賀指導員、阿瀬川指導員の海洋センターで実施しているため水泳実技に合わせて、両指導員に座学及び実技を行い、体育館プログラムとプールプログラムの実践的な内容を研修生に伝えることができた。 特に近年体育館プログラムのカリキュラムが少ないため、現場で即実践していくことが可能なカリキュラムは、センターの活性化のために必要と考えるため、研修に取り入れる方向で検討したい。

８．スタッフ全体反省会について

以下の日程で、事業課・教官スタッフ・財団研修生が参加する全体反省会を行った。

日時：10 月 12 日　15：30～17：00

場所：B&G 財団　大会議室

参加者：鈴木、持田、中島、大久保、牧岡、齊野平、三木、平川、合佐昆　9 名

内容：・日朝点呼ではできていると思っていた。点呼のゴールが見えず、動画などでイメージを付けるのも手段の一つではないか。
・指導実習の回数は多かったが、打ち合わせの時間が少なかった。
・指導に慣れている研修生以外は、４、５回目でメインができるようになっていた。
・水泳の指導実習が１回しかなかったため、もう少し機会があればよかった。
・Google ドライブの更新がいつされてかがわからなかった。
・教官が撮った写真も Google フォトなどで共有してほしい。
・夜の課業が夕食より早まったため、自主トレの時間が少なかった。
・班長の役割があまり明確でなく、主体的に動けなかった。
・当直が一番忙しく、水上バイク係は仕事が少なかった

対応：サポート指導員や他課の意見も参考に、最終的には担当課が判断し、次回の改善に活かしていく。

９．今後の研修の方向性（案）

本研修の課題を次の２点があげ、今後の方向性として進めていきたい。

（１）　<u>（課題１）公務員と指定管理者の役割の違い、技術レベルの相違の改善</u>

・業務としての「現場指導」が求められている指定管理者、施設管理や長期修繕などの「管理」中心の公務員に大きく分かれ、それぞれの役割が明確化している。
・実技では特に水泳に顕著なのが、温水プール指定管理者と公務員の水泳レベルの差があり、現在の研修ではレベルが下の研修生に合わせたカリキュラムでの進捗となり、大幅なカリキュラムの変更を行わない限り、クロール、平泳ぎの 2 種目の完成までが限界である。

＜対応案＞

・海洋センターや指導員にヒアリングを行い、財団として、研修で指導する内容、到達目標を整理しながら、詳細を検討していきたい。

（２）<u>（課題２）研修の履修時間規程と実態のカリキュラム時間数との乖離</u>

・2017 年度から CE 研修となり、6 年が経ち、カリキュラムの変更とともに、ヨット実技を行わない天城町での研修も実施され、４つの分類、最大 6 つの教科に分かれた細かい区分では、規程と実態が伴わず、カリキュラムの区分が対応しきれなくなっている。

＜対応案＞

・そのため、「分類や教科の数を減らし統合する方法」や「規程から履修時間の区分を外し、毎年決裁での履修時間の区分設定をする方法」など、役員相談の上、年度内に理事会に上程できるよう内容をまとめていきたい。

◆履修時間規程及び実際履修時間

分　類	教　科	履修時間（規程）	履修時間（天城）	分　類	教　科	履修時間（規程）	履修時間（天城）
学科	財団事業概要	2	4	実習	指導実習	7	13
	海レク総論	3	3		救急法・救助法	10	11
	海レク活動と安全	6	8		施設・器材管理	9	10
	センター管理・運営	8	18		環境学習	6	7
実技	集団行動法	10	12		財団プログラム	15	18
	カヌー	21	22		心肺蘇生法講習	11	14.5
	ヨット	28	40	その他	式典・試験・講話等	10	22
	水泳	28	29				
	海レク	6	7		合計	180	238.5

2024 年 3 月理事会に間に合うよう、全部または一部改正を行う方向で役員相談を進める。

１０．所感

◆鈴木　昭正

今回は人事異動後、初めての研修となり、6 月沖縄より、事業課スタッフが 1 名少ない中であったが、研修開始直前の台風 11 号の接近、研修初日に研修生のコロナ陽性 2 名発生、教官のコロナ感染、研修序盤から対応に追われた。

しかしながら、追加職員の派遣や天城町職員のサポートにより、参加者への配付物品の準備や受付、開講式など、大きなトラブルなく乗り越えることができた。

今回研修修了者が全員試験に合格し、無事に事故なく研修を終えることができたのは、役職員やサポート指導員、特に天城町森田町長をはじめ、指導者会の全面協力があったからであり、感謝を申し上げたい。

今回運営面では、昨年度の天城町以上に、水泳及び立ち泳ぎの上達に時間がかかる研修生がいたため、毎日プールでの練習が必要な研修生に対する、夕方プール自主トレ時間とプールへの移動時間の確保に難があった。

センター指導員による水泳実技は、実技期間前半の 5 日間に集中して行い、残りは自主トレーニング期間で、サポートの指導員や教官が指導する体制となっているが、「中盤から後半にも水泳専門の指導員の配置」や「後半での水泳実技実施」、「参加条件として、水泳レベルの引き上げ」など、あらゆる方策を議論、検討していく必要があると感じた。

コロナや研修期間中に流行していたインフルエンザは、児童への指導実習や地域住民との交流により、今後も研修生やスタッフが感染する可能性は大いにある。

その上で、5 類になった今後のコロナへの対応は、即時検査可能な検査キットの用意やソーシャルディスタンスの確保など、必要不可欠なものだけ継続し、それ以外は取りやめとし、通常の研修に戻すことを検討していく。

今回研修期間中 3 期のリーダー体制で行ったが、リーダー、班長によって、日朝点呼をはじめとする雰囲気が大きく異なっていた。今回の研修生が他の回の研修生より、劣っているとはまったく思っていないが、作り出された集団の雰囲気が、サポート指導員が指摘するような覇気のな

いものであったことは、教官として、大いに改善点として受け止め、リーダー・班長の選定方法、途中でのリーダー・班長の交代の可否、役割の明確化など、次回に向けて、改善が必要不可欠であると感じている。

研修の雰囲気が、熱心に課業に取り組む意気込み、講師や指導員に積極的に声をかける姿勢を生み出し、ひいては、研修後の海洋センターでの活性化につながっていくものと考えている。

20 代前半の参加者が増えていく中で、教官とサポート指導員がチーム一丸となって、時代に即した研修の雰囲気を他者評価でよりよいものにできるように、方策を考えていく。

また、研修の本筋ではないかもしれないが、昨年度は研修生が BG 旗にメッセージを書き、ホテルや天城町役場に贈呈し、感謝を形で伝えていたが、今年はそのような対応が取られることはなかった。教官として、実技のスキルや知識、財団事業の理解以外にも本当に伝えるべきものは何か、修了者にどのような資質を求めるのかを考えさせられた回であった。

今後の研修内容の改正に向けて、カリキュラムの内容とともに、今一度、修了者に求める資質を整理したい。

◆持田　雅誠

個人としては初の天城研修であったが、沖縄研修に続いて①指導スキルの習得・上達を目指す、②研修生一人ひとりの主体性、積極性を引き出す、③課業プログラムの多様化を進める、の３点の大きなテーマに即して業務を進めた。

加えて今回は上記②のテーマをより後押しするべく、研修生がトレーニングや学習にこれまで以上に集中して臨めるように、天城町の施設やホテル環境を活かす形で研修生活や研修環境の合理化・IT 活用に新たに取り組んだ。

沖縄研修でも感じたことであるが、これら３つのテーマは個別で出来の良し悪しがあるものではなく、それぞれが連動して相乗効果を生むような形にならなければ、個人レベルではともかく集団に対しては期待する効果が生まれにくい。

そのような面で、今回の研修生はまず、最も基本となる泳力レベルが「全体として近年では最も劣る」（古賀氏、阿瀬川氏の評価）状態であったため、中盤過ぎまで自主トレ時間をカヌーに一切割けないなど、指導スキルの上達以前に基礎レベルの泳力獲得が目先の目標となってしまい、研修後期に至っても主体性を発揮するステージに上がれない研修生が多々見られた。

また、研修環境の合理化や効率化が研修生に余裕を与え、その結果として「研修姿勢や成果が向上する」という仮説のもとに様々な変更を加えたが、IT による連絡が研修生同士の連絡・伝達機会を減らすなど、期待と正反対の結果も生じた。

「研修全体の雰囲気づくり」はリーダー、班長といった中核メンバーの気質や意欲、フォローによる部分も大きいが、今回は集団をリードする余裕のある研修生が非常に少なく、教官側も対応に苦慮した。この点は、サポートスタッフからも指摘があるように、リーダーや班長を任期途中でも交代させることや、財団職員であっても意欲が認められず指示に従わないのであれば途中で帰京させるなど、状況に応じた対応を早めに行わなければ集団の規律と目的意識・研修姿勢が保てない。この点は個人的にも非常に消化不良となった。

総じて、研修生の大多数の泳力・体力および運動経験・運動習慣が従来の「Ｂ＆Ｇインストラクター」の基準から大幅に低下している傾向が顕著な中で、研修目的と課業プログラムの構成、

研修の進め方にはじまり、研修生については参加条件の設定や接し方など、抜本的に見直すべき点が多いことを改めて実感した。

基本に立ち返るにしろ新たな方向性を定めるにしろ、サポート指導者や海洋センター等の意見も聞いて、次年度の指導方針を相談したい。

１１．表彰者

優秀賞　１名

・関　研吾　　長野県阿南町海洋センター

【選考理由】

研修生からの信頼も厚く、第 3 期チーフリーダーとして、毎朝の日朝点呼から率先して大きな声を出し、研修生 35 名をまとめ、第 8 回の絆を深め、修了試験の全員合格に導いたため。

１２．外部講師及び海洋センター指導員

【外部講師】

氏　名	所属団体	内 容
岩﨑　由純	一般財団法人日本ペップトーク普及協会	ペップトーク
小峯　力	中央大学	救急救命と生命倫理
工藤　祐直	青森県南部町	全国指導者会講話
津幡　佳代子	公益財団法人 日本レクリエーション協会	レクリエーション実習
長原　洋一	一般社団法人さくらインヴァース	カヌーポロ実技
木村　亮太	一般社団法人さくらインヴァース	カヌーポロ実技
柳　尭比古	一般社団法人さくらインヴァース	カヌーポロ実技
政木　孝一	徳之島地消防組合	上級救命講習
大橋　卓生	パークス法律事務所	リスクマネジメント
白木　俊郎	株式会社　協栄	水泳プールの維持管理
道越　勇夫	一般社団法人指定管理者協会	指定管理者制度
霜鳥　裕達	株式会社霜鳥	体育館フロアの維持管理
小又　美香	一般社団法人日本パラ水泳連盟	パラ水泳実技
本山　幸子	一般社団法人日本パラ水泳連盟	パラ水泳実技
酒井　正人	一般社団法人日本パラ水泳連盟	パラ水泳実技

【海洋センター指導員】

氏　名	所属センター	内 容
阿瀬川　文輝	島根県浜田市三隅	水泳実技、フロアリズム・アクアリズム実技
古賀　博隆	福岡県朝倉市甘木	水泳実技、フロアリズム・アクアリズム実技
中村　大悟	大分県中津市耶馬渓	水上スキー実技

羽立　友一	大分県中津市耶馬渓	水上スキー実技
浴野　秀星	鹿児島県いちき串木野市	水泳実技
佐倉　亮	香川県池田海洋クラブ	カヌー実技
草島　猛	北海道石狩市	カヌー実技
中西　浩司	香川県高松市国分寺	カヌー実技
長尾　美和	北海道大空町女満別	カヌー実技・カヌー試験
織田　渉良	佐賀県太良町	水上バイクレスキュー
種継　武	兵庫県上郡町	研修運営全般

１３．別紙添付資料

（１）教官、サポート指導員反省・改善点フォーム（中島、大久保、牧岡　他）

（２）修了者名簿（都道府県別）

（３）最終研修スケジュール

（４）参加者アンケートまとめ

（５）修了のしおり

以上